

事業名 とちぎ健康の森整備事業

健康で生きがいを持ち、快適に暮らせる社会・障害のある人もともに暮らしやすく、障害者が積極的に参加できる社会の実現のための中核施設として評価の高い事業

受賞機関 栃木県土木部建築課

事業実施期間 平成4年9月16日～平成13年8月29日

事業費 24,400百万円

事業等の特徴

健常者の健康づくりのための施設、障害者・老人のためのリハビリ施設、養護学校を一体として整備し、相互を関連づけることにより、プラスの効果をおねらっている。これにより孤立しがちな弱者の活動の巾を広げる可能性が広がり、実際にそれを助けるプログラムを展開している。健常者に対しても、施設利用の促進を図るための試みを数多く行っており、施設建設のコンセプト、その後のフォローも行われている。

事業の概要と利用者等の評価

この建築物は、基本設計の段階から、健康づくりや老人福祉、障害福祉等について、調査研究が深められ、また、ユーザーの意見聴取等も積極的に行われ、コンセプトから、実施に至るまで統一的にデザインされている。外観や内観については、既存の自然の森を尊重し、仕上げにも天然素材を多用することで、癒しの空間の創出をおねらっている。さらには、徹底したバリアフリーを施し、健康と福祉の建物に相応しい機能を備えている。

この施設には、健康づくり、生きがいづくり、障害福祉の3つの大きなテーマが融合され、それぞれのテーマを実現する4つの施設が建物内に収められており、それぞれの部門ごとに、それぞれの目的を持った利用者が訪れている。

健康づくりセンターでは、健康度の測定、医学的検査・体力測定のアドバイスやトレーニングが専門家から受けられる。屋内ランニングコースには、床にペースメーカ装置が組込まれている等先端技術も駆使されている。センターでは年に4回、各1万部の健康づくりに関する情報誌を発行している。また、



全景



温水プール



リハビリセンター



散策路

年間400回を超える教室や講座、年間24コースの研修を実施しており、健康づくり推進の中核機関を担っている。併設された健康科学展示室には、健康についての意識を啓発する各種の展示モジュールが常設されている。

生きがいづくりセンターにはシルバー大学が開設されており、長寿化及び高齢化社会での生涯学習にも取り組み、また、各種教室や陶芸教室、運動場が備わり様々な活動を支援している。

リハビリテーションセンターは、身体障害者の自立や社会参加を支援するための施設が整えられている。また、肢体不自由児施設があり、ここから、併設の養護学校へ通学できる仕組みになっている。

わかくさ養護学校は、障害児の教育から自立支援まで行える施設で、トイレや洗面台なども、障害の度合いに応じての機器が設置されている。バリアフリーを徹底し、また、車椅子と介添者が6組同乗できる大型エレベーターを設置している。

審査委員会委員の意見等

- ・重要な整備と考えられる。管理上の問題は残ると思われるが、できるだけ市民共働の場としていくことも考えてもらいたい。